

# 「困った時はお互いさま」

## AMDA、ライオンズクラブ

一方4000人以上の命が奪われたトルコ大地震。被害の大きさから、日本人的にも阪神大震災を思い起す。民間から救援の手を差し伸べ、緊急援助を終え帰国したAMDA(ア

### 医師の心のケア 重要性を痛感

AMDAのトルコ派遣医療チームは14人。上田明彦医師(32)は東京都調布市在住。被災地イスタンブールの南西十数kmの無医村のヌンエティエ村(人口約1000人)に入り、延べ400人を診察した。阪神大震災でも指摘された心のケアの重要性を痛感したという。

「明らかにPTSD(心的外傷後ストレス障害)の患者がいた。ほかにも『眠れない』『地震のショックが原因と見られる訴えが相次いだ』と振り返り、地元医師による心のケアの必要性を指摘した。

上田医師は阪神大震災では、組織に属さない個人ボ

シヤ医師連絡協議会(本部・岡山市)と、社会奉仕団体のライオンズクラブを中心とする救援チームのメンバーは、阪神大震災を起点に芽生えた助け合いの精神を語っていた。(野原 靖)

## 無医村で診療 組織活用、拠点作り

ランティヤとして活動し、院を抜けれなかった。週た。震災が起きた時、私は、未だやと神戸に行けた。長野県の勤務医ですぐに病その後、勤務医を辞めAMスクララの合同チームを

今回、AMDAは第2次派遣から、日本のライオンズクラブとの合同チームを

国際組織の強み 素早く資金協力

現場に送った。同クラブとの協力は初めて。全国で15万人余の会員を抱える同クラブが組織の強みを生かし、いち早く資金協力を申し出たのだ。

ライオンズクラブ国際協会の東京地区の責任者、見上良也さんは、救援チームとともにトルコ入りした。国際組織の強みを生かして

募金受け付け

毎日新聞社会事業団の救援募金は「トルコ地震救援金」と明記して、左記へ郵便振替(現金書留)送金してください。なお、直接ご持参下さい。なお、物資の受け付けはいたしません。

〒500-0800 1 大阪市北区福白3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「トルコ地震」係 郵便振替00970・9・12899

現場のクラブと緊急会合を開き、今日20日まで心のケアの応急拠点を作ることを決めてきたという。また、冬が近いので、すぐにでも仮設住宅が大量に必要なと思う、プレハブ住宅街の建設を申し入れた。「10月中旬には日本から1000万が拠出できるはず」と見上さん。拠出現場は世界的にも突出しているという。これが実現したのも阪神大震災での苦勞を見聞きしただけからだ」と話す。

AMDAは、ロシアのサハリン地震(1995年5月)や中国・雲南省地震(96年2月)など、多くの災害に医師などを派遣してお

り、阪神大震災以後の自然災害に対する緊急救援プロジェクトだ。12カ国、20回以上実績がある。医師団は原則として多国籍で構成し、「困った時はお互いさま」が基本精神だ。

### 草地賢一さん(姫路工大)に聞く

国際支援活動を続ける「阪神大震災地元NGO救援連絡会議」代表の草地賢一(姫路工業大教授(国際ポランティヤ論))に、被災地支援のあり方などについて聞いた。(井上 大作)

「被災発生後、効果的な支援開始時期は、また支援の期間は、

◆初期の救命・救助活動は専門家の仕事。私たちの

◆阪神大震災の被災地では、余裕ではない人も多くの援助をしている。「少し身を削って」という気持ちも必要ではないか。お金だけでなく、ポランティヤになって時間や専門知識なども提供してほしい。

◆阪神大震災の被災地にとって国際支援の意義は、

## 地元還元型の援助を

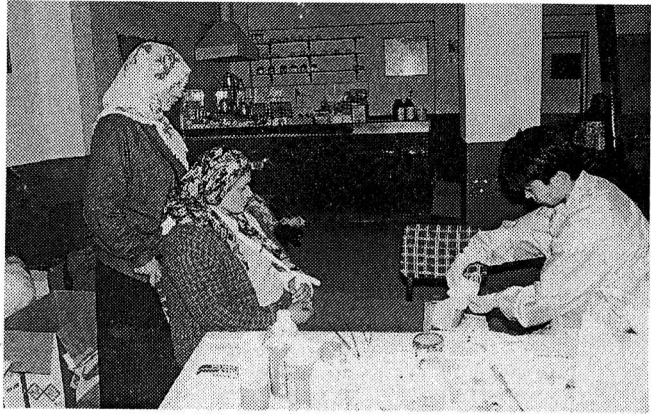


役割は中期的な復興支援にある。まず、何が必要か現地調査した上、援助する。期間は大体半年から1年ぐらいいがめど。5年、10年かかる本来の復興は、その国の政府や住民が担うしかない。

◆効果的な支援にするために重要な点は、

◆成否の分かれ目は、必

◆阪神大震災までは世界どこかで災害が起きていても、実感はなかなか持てなかった。しかし、今は私たちが同じように苦しんでいる人がいる」という気持ちになる。阪神大震災の被災地の人々は、苦しんだ分、支援という物資やお金さえかたがた、



トルコの山村で緊急医療活動を行うAMDAの上田医師(左) ライオンズクラブ提供

# 深層

## トルコ大地震 民間からの救援